一般社団法人
日本保育保健協議会
Japanese Society for Well-being of Nursery-schoolers

令和3年度　中四国ブロック合同研修会　in徳島

ごあいさつ

今回、徳島県が主催となり２０２１年度中四国ブロック研修会を開催させていただきます。テーマを「子どもたちが希望を持ち続けられるために～ひとりひとりに寄り添う保育と医療をめざして～」としました。現在、コロナ禍のなかで、子どもたちには希望を持ち続けてもらいたいという強い願いがあります。そのために、保育と医療に携わっている私たちができることは、子ども達ひとりひとりに寄り添うことが必要と思います。皆様と一緒に考えたいと思いますので、ご参加よろしくお願いします。

中四国ブロック研修会　大会長　田山正伸

～～～～～～～～～～～プログラム～～～～～～～～～～～

『子どもたちが希望を持ち続けられるために』
～ひとりひとりに寄り添う保育と医療を目指して～

9：30 ～ 9：35　**開会挨拶**　田山　正伸（徳島県小児科医会会長・田山チャイルドクリニック）

9：35 ～ 10：15　**講演１：「抱っこの魅力」と「母乳育児」**
三浦　義孝（日本保育保健協議会名誉会長・みうら小児科）

10：20～11：15　**講演２：園で気になる子どもの理解と関わり方　―親と子への支援―**
金原　洋治（かねはら小児科）

11：20～11：50　**講演３：徳島県の小児新型コロナウィルス感染症について**
田山　正伸（田山チャイルドクリニック）

11：50～13：00　≪昼食休憩≫

13：00～13：40　**講演４：保育園での事故と小児救急**
森　一博（末広ひなたクリニック）

13：45～14：25　**講演５：幼稚園・保育園での食物アレルギー対応**
（保育所におけるアレルギー対応ガイドラインから）
山田　紳一智（山田こどもクリニック）

14：30～15：10　**講演６：神経発達症の診断から考える子どもの未来へのかかわり**
～子どもの将来を考えて、いま私たちができること・すべきこと～
山上　貴司（医療法人栄寿会　天満病院小児科）

15：10～15：15　**閉会挨拶**　田口義行（田口小児科クリニック）

【日　　時】　2022年1月30日（日）　9：30～15：15
【開催形式】　Web開催（徳島県医師会館）
【参 加 費】　会員：1000円　生涯研修登録者：500円　非会員： 3000円　（学生：無料）
【参加申込】　日本保育保健協議会ホームページより　http://www.nhhk.net
【問合せ先】　一般社団法人　日本保育保健協議会　事務局
TEL：03-5422-9711　FAX：03-5422-9750　Mail：hoikuhoken-office@themis.ocn.ne.jp

日本保育保健協議会中四国ブロック研修会 in 徳島（抄録集）

講演１：「抱っこの魅力」と「母乳育児」

三浦　義孝（みうら小児科）

周囲が温かく支え、赤ちゃんの接し方を学ばせ、赤ちゃんを“抱っこ”させることで、子育ての混乱や虐待は予防できるかも知れません。子育て環境が様変わりしても、抱っこは「心の基地」です。保育園（所）で虐待の芽を見つけ、摘み取りましょう。また、入園しても母乳育児を続けるためには、保育園との連携が不可欠です。

保育士は、乳幼児期から親子とふれあいを持ち、子育てに関する問題の代弁者であり、支援者です。地域に密着して、母親達の出会いを支援しましょう。

講演２：園で気になる子どもの理解と関わり方　―親と子への支援―

金原　洋治（かねはら小児科）

園で気になる子どもの背景には、発達障害、個性的、スロースターター、不安や感覚の問題、家庭や園の環境など様々な要因があります。専門機関の相談や療育の対象になる子もいますが、その子に合った保育や家庭支援をしながら成長を待てば良い子どもも沢山います。発達障害かどうかではなく、気質や性格、不安、感覚、愛着、能力・才能などさまざまな角度から見ることが大切です。親と子どもへの理解と関わり方についてお話します。

講演３：徳島県の小児新型コロナウイル感染症について

田山　正伸（田山チャイルドクリニック）

徳島県内の新型コロナウイルス感染症は、第４波までと異なり、デルタ株による感染拡大となった第５波では、全国と同様に小児へ感染拡大が危惧されました。幸い急速な拡大までは至らず、ピークアウトしてきています。徳島県内の新型コロナウイルス感染症の状況や診療検査などの医療体制等を説明し、特に、感染対策、医療体制、ワクチン接種等における小児での課題について報告します。

講演４：保育園での事故と小児救急

森　一博（末広ひなたクリニック）

現在でも、本邦の幼稚園・保育施設では年間重症事故が1500件程度、死亡例が5-10例発生している。その中で、(1)睡眠中の窒息、(2)誤嚥、(3)食物によるアナフィラキシーに対して、小児救急現場としての初期対応について経験した症例を中心に解説する。最後に(4)蘇生やAED使用の最近の話題 にも言及する。

講演５：幼稚園・保育園での食物アレルギー対応

（保育所におけるアレルギー対応ガイドラインから）

山田　紳一智（山田こどもクリニック）

近年、食物アレルギーの乳幼児は5－10％いると考えられる。2011年保育所におけるアレルギー対応ガイドラインがはじめて発表され、2019年保育所におけるアレルギー対応ガイドラインが改訂された。今回の改訂では、最新の知見を踏まえ、「生活管理指導表」の位置づけの明確化、食物アレルギー緊急時の対応、事故防止の取り組みなどが記載された。

アレルギー対応ガイドラインを踏まえ、園での食物アレルギー対応についてならびに緊急時の対応について解説する。

講演６：神経発達症の診断から考える子どもの未来へのかかわり

～子どもの将来を考えて、いま私たちができること・すべきこと～

山上　貴司（天満病院小児科）

自閉スペクトラム症や注意欠如多動症等の神経発達症の診断基準は、それらの中核症状により、対人関係などの社会性や学業、職業などの複数の場面で機能障害が生じていることと明記されている。将来的に機能障害が改善され、社会的自立ができれば、神経発達症の診断名は削除され、個性的な人に変わる。神経発達症と診断される児を一人でも多く減らすために、幼児期の個性の理解と継続した支援の視点と重要性を皆さんで考える機会になればと思っています。